
 東京都市大学 TOKYO CITY UNIVERSITY		取得可能な学位 入学定員 収容定員	人材の養成及び教育研究上の目的
		1,750 6,670 <small>※本学では編入学定員を設定していない。</small>	学校教育法に基づき、豊かな教養を授け、深く専門の学術を教授研究し、もって文化の向上に寄与するとともに、人類福祉の増進に貢献することを目的とする。
		学士 1,750 6,670	
理工学部 <small>※2019年度以前入学生は、旧学部名(工学部)を用いる。</small>	機械工学科 学士(工学) 120 480	機械工学の専門知識の修得と実践的学習を通して、工業が自然や人間社会に及ぼす影響に興味と関心を持ち、問題の発見から解決に至る一連の流れを創造して、もの作りができる能力と、社会の多様な問題を解決するためのコミュニケーション能力を向上させることで、社会変革を担える人材の養成を目的とする。	
	機械システム工学科 学士(工学) 110 440	ものづくり、機械工学、電気工学、制御工学の基礎を幅広く学修し、機械システムを設計する実践的な経験を積むことにより、理論的裏付けを持った実践と協働によって次代の多様な社会的要請に応じた機械システムを構築できると同時に、教養、語学力、国際的思考を有し、社会を担う気概と倫理観を持った技術者の養成を目的とする。	
	電気電子通信工学科 学士(工学) 150 600 <small>※2018年度以前入学生は、旧学科名(電気電子工学科)を用いる。</small>	電気電子通信工学の基礎となる知識を十分に修得した上で、幅広く専門知識を身に付け、さらに学生実験や卒業研究を通して実践的な経験を積むことにより、進化する社会の中で技術者として生き抜く力を養い、現実即した発想のもと身に付けた知識に基づく理論的裏付けを持った実践によって多彩かつ柔軟に応用できる人材の養成を目的とする。	
	医用工学科 学士(工学) 60 240	工学分野と医学分野の知識及びその活用に必要な基本知識と技能をバランスよく修得し、それらの知識と技能を有機的に融合させて医療及び福祉に貢献する機器や技術の研究開発を実践できる人材、さらには多様な知識を適切に活用して問題の発見と解決ができ、社会の変化に柔軟に対応できる人材の養成を目的とする。	
	応用化学科 学士(工学) 75 300 <small>※2020年度以前入学生は、旧学科名(エネルギー化学科)を用いる。</small>	応用化学に関する系統的な学修、すなわち物質の構造や性質に関連する化学の様々な基礎知識を修得し、化学をベースに新しい物質を創成・利用するための基礎から応用までの専門知識について理解を深め、先進的な研究活動の経験を積むことにより、機能性材料開発、クリーンエネルギー、環境浄化、省資源などの分野で広く活躍できる能力をそなえた人材の養成を目的とする。	
	原子力安全工学科 学士(工学) 45 180	カーボンフリー電源である原子力エネルギー利用のさらなる安全性向上と発電以外の応用技術創造のために、原子核や原子力安全に関する正しい理論の学修と、放射線の取扱に関する実務を交えた学修によって、原子力・放射線分野の理論及び技術を修得し、高度で専門的な能力を有する技術者の養成を目的とする。	
	自然科学科 学士(理学) 60 240	物理学・化学・生物学・地球科学・天文学及び数学といった自然科学に関する幅広い知識の涵養により、総合的な見識と健全な判断力を醸成し、自然科学における様々な現象を理学的視点により探究できる人材や広範な理学分野の学術的発展に寄与する調査分析能力を身に付けた人材を育成することで、複雑化及び多様化する社会に柔軟に対応できる人材や科学と社会の架け橋となって人類の持続可能な進歩や福祉に貢献する人材の養成を目的とする。	
	建築学科 学士(工学) - - <small>※2020年4月学生募集停止。</small>	科学技術が高度に発展した現代において、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる建築・都市を実現するために、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者・建築技術者の養成を目的とする。	
	都市工学科 学士(工学) - - <small>※2020年4月学生募集停止。</small>	工学の基礎力及びシビルエンジニアリングに関する実務の理解・デザイン能力を含む総合的問題解決能力をそなえた、社会の中核となる人材を育成すること、並びに人間-自然環境-社会システムの健全かつ持続的な共生関係を理解し、安全で快適な都市環境の実現に向けて、都市の構築・維持管理、都市環境の改善・創造、及び災害に強い都市づくりに貢献できるエンジニアを養成することを目的とする。	
建築都市デザイン学部	建築都市デザイン学科 学士(工学) 220 880	建築、社会基盤施設から都市デザインまでをフィールドとし、持続的な建築・都市の創造・再生を実現するため、社会の要請に対応できる高い能力をそなえた人材の養成を目的とする。	
	建築学科 学士(工学) 120 480	科学技術が高度に発展した現代において、歴史・文化を踏まえた上で都市・地域を再生し、人間生活や社会機能の高度化・複雑化に対応でき、自然環境と調和できる建築・都市を実現するために、人間としての幅広い教養、建築学に係わる総合的な基礎能力及び応用能力を培い、広く社会の発展に貢献できる建築設計者・建築技術者の養成を目的とする。	
	都市工学科 学士(工学) 100 400	工学の基礎力及びシビルエンジニアリングに関する実務の理解・デザイン能力を含む総合的問題解決能力をそなえた、社会の中核となる人材を育成すること、並びに人間-自然環境-社会システムの健全かつ持続的な共生関係を理解し、安全で快適な都市環境の実現に向けて、都市の構築・維持管理、都市環境の改善・創造、及び災害に強い都市づくりに貢献できるエンジニアの養成を目的とする。	
情報工学部 <small>※2019年度以前入学生は、旧学部名(知識工学部)を用いる。</small>	情報工学科 学士(工学) 180 720	高度に発達した情報技術を基盤とした豊かで持続可能な社会の実現に向けて、情報工学に関する基礎から応用までの知識と技術を体系的に身に付けるとともに、それらを現実の問題に適用して解決できる能力を有し、社会が要請する情報システムやサービスを実現して国際社会で活躍できる人材の養成を目的とする。	
	情報科学科 学士(工学) 100 400	情報科学に関する専門知識と応用能力を兼ね備え、技術を総合的に活用したシステムとしてのコンピュータの開発能力を持ち、社会の要請に応えるべく、問題の本質を積極的に解決する能力を身に付けているだけでなく、コンピュータが豊かな社会に貢献するための倫理観をも身に付けている人材の養成を目的とする。	
	知能情報工学科 学士(工学) 80 320 <small>※2018年度以前入学生は、旧学科名(経営システム工学科)を用いる。</small>	人工知能や人間の知能など様々な知能を統合・活用しながら、IoT技術でビッグデータを収集でき、データサイエンスを駆使して分析し、その結果から解決策や新しい製品、仕組みをデザインし、それを社会に送り出すマネジメント能力を通じて、超スマート社会にイノベーションを起こすことのできる総合的技術者の養成を目的とする。	
	情報通信工学科 学士(工学) - - <small>※2019年4月学生募集停止。</small>	情報通信分野において、通信システムを支えるネットワーク、通信機器を構成するエレクトロニクスに関する基礎技術の修得、及び演習・実験、卒業研究などの実践的学習に基づく応用技術の修得を通じて、社会に貢献できる技術者を養成することを目的とする。	
	自然科学科 学士(工学) - - <small>※2020年4月学生募集停止。</small>	数学・物理学・化学・生物学・地球科学・天文学といった自然科学に関する幅広い知識の涵養により、総合的な見識と判断力を醸成し、自然科学の学術的発展に寄与する調査分析能力を身に付け、科学と社会の架け橋となって人類の持続可能な進歩や福祉に貢献する人材を養成することを目的とする。	
環境学部	環境学 学士(環境学) 180 700	グローバルな視野のもと、地域から地球規模に及ぶ環境問題を科学的に捉え、自然環境と都市環境を調和させることで持続可能な未来社会を創造し、政策科学に立脚した経済システムを環境調和型に転換することによって、カーボンニュートラルの実現、ひいては循環型で持続可能な社会の構築に貢献できる人材の養成を目的とする。	
	環境創生学科 学士(環境学) 90 360	持続可能な社会の基盤である生態環境、都市環境及びそれらの相互関係性を理解させるとともに、劣化した自然環境の保全・復元・創造や人間社会にとって安全で快適な都市空間の創造についての理念と方法論を修得させることにより、実社会において持続的な環境を創生できる専門家の養成を目的とする。	
	環境経営システム学科 学士(環境学) 90 340 <small>※2018年度以前入学生は、旧学科名(環境マネジメント学科)を用いる。</small>	気候変動、廃棄物問題、大気と水の汚染、生物多様性の消失などの現在直面する地球環境問題は、人間の日常生活と事業活動が原因で発生している。このような問題に対処するために、環境経営と環境政策を基軸とする教育と研究を推進し、循環型で持続可能な社会の実現に向けた提案や実践を行うことができる人材の養成を目的とする。	
メディア情報学部	メディア情報学 学士(社会情報学), 学士(情報学) 190 750	人間と情報通信技術の調和による、より良い社会の実現に向けて、人間社会や、情報通信技術が生み出す新しい情報環境を深く理解した上で、社会的仕組みや情報システムを調査・分析する能力を身に付けるとともに、新しい仕組みやシステムを実現・評価・改善することができる人材の養成を目的とする。	
	社会メディア学科 学士(社会情報学) 90 360	グローバルな諸問題から身近なコミュニケーション問題までを、社会科学の視点から調査分析し、情報メディアを駆使した解決法を編み出し、社会に向けて説得的に提言できる人材、そのために必要な実践力・リサーチ力、デザイン力、コミュニケーション力等をそなえた人材の養成を目的とする。	
	情報システム学科 学士(情報学) 100 390	人々が幸福に暮らせる自然環境・社会環境を維持発展していく基盤として、多様なニーズに応える安全で安心な情報システムの実現に向けた諸課題に取り組むことで、優れたシステムを作り上げるとともに、その必要性を戦略的に提言・説明し実現に向けマネジメントできるアセスメント力を持った人材の養成を目的とする。	
デザイン・データ科学部	デザイン・データ科学科 学士(学術) 100 100 <small>※2023年4月に新設。</small>	定量・定性の両方のデータ科学に関する知識と技術に裏付けられた批判的思考力と論理的思考力、そしてグローバルリテラシーの涵養により、世界のあらゆる「もの」と「こと」を読み解く能力を修得させる。その上で、実社会における多種多様な課題を解決するために、新たな「もの」と「こと」を具体的に、構想・設計・構築、すなわち、デザインできる実践的な専門力を持つ人材の養成を目的とする。	
都市生活学部	都市生活学科 学士(都市生活学) 160 640	都市の経営とデザインに関する企画力を有し、事業の推進及び管理運営を担う構想力・実践力を兼ね備え、都市に関する豊富な知見と国際人として活躍できるコミュニケーションスキルを活用して、魅力的で持続可能な都市生活の創造に資する人材の養成を目的とする。	
人間科学部	人間科学科 学士(人間科学) 100 400 <small>※2022年度以前入学生は、旧学科名(児童学科)を用いる。取得可能な学位は、学士(児童学)である。</small>	いのちを大切に、平和と環境を保持し、人類の持続可能な発展をもたらすため、「保育・教育」「発達・心理」「文化」「保健・福祉」「環境」について総合的に理解し、その向上に貢献できる豊かな感性としなやかな知性をそなえた高い専門性を持つ、自立した人材の養成を目的とする。	



東京都市大学

TOKYO CITY UNIVERSITY

取得可能な学位	入学定員	収容定員
	344	730
修士	302	604
博士	42	126

人材の養成及び教育研究上の目的

大学院

総合理工学研究科

※2017年度以前入学生は、旧研究科名（工学研究科）を用いる。

環境情報学研究科

専攻	博士前期課程	博士後期課程	取得可能な学位	入学定員	収容定員
総合理工学研究科	博士前期課程	博士後期課程	修士(工学), 修士(理学)	276	552
	博士後期課程	博士(工学), 博士(理学)	38	114	
機械専攻	博士前期課程	博士後期課程	修士(工学)	60	120
	博士後期課程	博士(工学)	8	24	
電気・化学専攻	博士前期課程	博士後期課程	修士(工学)	66	132
	博士後期課程	博士(工学)	8	24	
共同原子力専攻	博士前期課程	博士後期課程	修士(工学), 修士(理学)	15	30
	博士後期課程	博士(工学), 博士(理学)	4	12	
自然科学専攻	博士前期課程	博士後期課程	修士(理学)	15	30
	博士後期課程	博士(理学)	2	6	
建築・都市専攻	博士前期課程	博士後期課程	修士(工学)	54	108
	博士後期課程	博士(工学)	8	24	
情報専攻	博士前期課程	博士後期課程	修士(工学)	66	132
	博士後期課程	博士(工学)	8	24	
都市工学専攻	—	—	—	—	—
	博士後期課程	博士(工学)	—	—	
環境情報学研究科	博士前期課程	博士後期課程	修士(環境情報学), 修士(都市生活学)	26	52
	博士後期課程	博士(環境情報学), 博士(都市生活学)	4	12	
環境情報学専攻	博士前期課程	博士後期課程	修士(環境情報学)	20	40
	博士後期課程	博士(環境情報学)	2	6	
都市生活学専攻	博士前期課程	博士後期課程	修士(都市生活学)	6	12
	博士後期課程	博士(都市生活学)	2	6	

日々進歩する科学技術と変化の激しい社会情勢を念頭に、高度で幅広い理工学に関する理論と実践力を修得させて、学際的視野を持って応用力の涵養を図るとともに高い倫理観と国際性をそなえさせることによって、科学技術に立脚した課題の発見と多角的視野から解決策を導くことで社会貢献ができる人材の養成を目的とする。

理工学に関する高い専門性、語学力及び情報活用能力を修得させることによって、学際的な分野への対応能力を含めた専門的深化により応用力を培うとともに倫理観と国際性をそなえさせ、これらの能力に裏付けられた課題発見力と解決力を活かして社会情勢の変化に迅速に対応することで、科学技術社会に幅広く貢献できる人材の養成を目的とする。

学際的視野を持って自立して研究活動を行うのに必要な理工学に関する学識、研究能力、倫理観及び国際性を高度にそなえさせることによって、先進的な知識と技術を駆使して、社会からの要請に応えるための課題を設定し、その課題を着実に解決できるとともに、新しい領域を開拓できる人材の養成を目的とする。

環境、情報、都市生活に関わる高度な教育と社会的要請に応える研究の実践を通して、複雑化する世界や地域の中から課題を的確に発見し解決するために、自然、数理及び社会科学的分析力と洞察力を養い、多様な利害関係者と連携しつつ多角的に探究し、新たな価値と豊かな社会を創造することができる人材の養成を目的とする。

環境、情報、都市生活に関わる高度な教育と社会的要請に応える研究の実践を通して、複雑化する世界や地域に生じる様々な事象の中から課題を的確に発見し、秀でた専門性を活かして課題の解決に挑戦するとともに、国際社会で活躍できる実践的な能力を養い、新たな価値と豊かな社会の創造に貢献できる人材の養成を目的とする。

環境、情報、都市生活に関わる高度な教育と社会的要請に応える研究の実践を通して、グローバル化と技術革新に対応した幅広い知見、価値創造の方法論を先導する研究開発力を有するとともに、科学的思考を通して現代社会を洞察する力を養い、学問の新時代を切り拓く構想力と卓越した専門能力を併せ持つ人材の養成を目的とする。

※修士課程2020年度以前入学生は、旧課程名（修士課程）を用いる。

※本大学院が適当と認めた場合には、博士（学術）の学位を授与することがある。